



「Sulang」はパラオ語で「ありがとう」という意味です。（私が置かせていただいている環境に感謝を込めて）

日本は暑い夏が終わり、秋に向かっていくところでしょう。福井の大雨のニュースも耳に入ってきていますし、日本全国いたるところで大雨による被害があるようで、心配です。そんな日本とは真逆で、パラオでは雨季にも関わらず、最近雨が少ないです。1日のうち1度はスコールがあって、雨が降る印象でしたが、この2カ月近くのうちで雨が降ったのは5日くらいな気がします。乾燥していて、住まいの近くで山火事が発生しました。地震や大雨、台風などの災害はほぼないのですが、まさか山火事の災害を心配するとは思っていませんでした。

私のパラオでの活動も1年を過ぎ、先日、活動1年を過ぎての中間報告会のプレゼンテーションがこちらのJICA関係者やパラオの方々に向けて行われました。今回は、私の理科教育についての活動報告を行いたいと思います。

○理科教育の活動報告

この1年間の主な活動は、赴任先のベラウモデクゲイスクールで理科授業の実施と実験を効果的に導入して、生徒の科学への興味の増進、理解力の促進でした。すでに理科実験室にあるもの、牛乳パックや醤油、バナナといった身近な材料などを使って実験を計画して実施してきました。厚紙を使ったペーパーコースター作りや牛乳パックを使ったピンホールカメラの作製、醤油から塩の結晶を取り出して観察するなど、30テーマくらい教材ができました。

生徒は実験が大好きで、きらきらと目を輝かせながら観察したり、作製したりする様子は、見ていて嬉しくなります。実験した結果をプレゼンテーションすることも大切で、そういった活動も取り入れるようにしています。生徒へのアンケートから、実験によって理科への興味が増して、理解度が深まったり、思考力が高まったということが分かりました。

目の前のものを見ながら、試行錯誤して、「えっ?」「なんでだろう?」「こういうことか?」と考えを巡らせることができることは理科の醍醐味で、大きな魅力だなと再認識しています。



1年が過ぎて、残すところおよそ半年となりました。ある程度、実験の教材を開発することができたので、授業実施や教材開発を続けていながら、実験マニュアルづくりや実験室の整理を行っていきます。こちらの先生がマニュアルを見れば実験の授業ができるように、実験に必要な物品がまとまっていて、すぐに取り出せるように、先生方と一緒に実験しながら、継続して理科実験室を活用していくことができる仕組みを作っていきたいと思っています。